

第2章

調査結果の概要

1. 回答者・回答機関の属性

本調査では、平成30年度（開設時）から令和3年度までに子若センターに相談し、相談を終了した者のうち、連絡先を本人・保護者了解のもとで把握している者を対象に実施したアンケート調査及びインタビュー調査（以下、「調査① アンケート調査」及び「調査① インタビュー調査」という。）と石巻圏域子ども・若者支援地域協議会構成機関を対象としたアンケート調査（以下、「調査② 機関等調査 機関票」及び「調査② 機関等調査 個別ケース入力票」という。）を実施した。下記は、調査① アンケート調査及び調査②に分け、回答者/回答機関の属性を示している。調査① インタビュー調査は、個人の特定を防ぐために回答者属性は載せていない。

【調査① 石巻圏域子ども・若者総合相談センター相談終了者等調査 アンケート調査 回答者属性】

調査① アンケート調査回答者の性別（図1）

図1より「女性」が63.5%、「男性」が30.2%となっている。「どちらともいえない」、「答えたくない」が合計で6.3%であった。

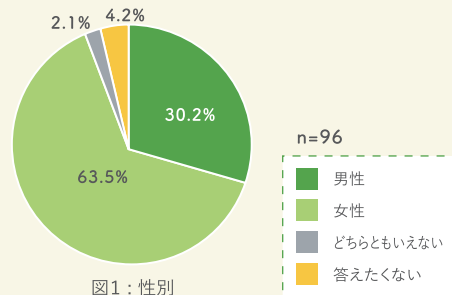


図1：性別

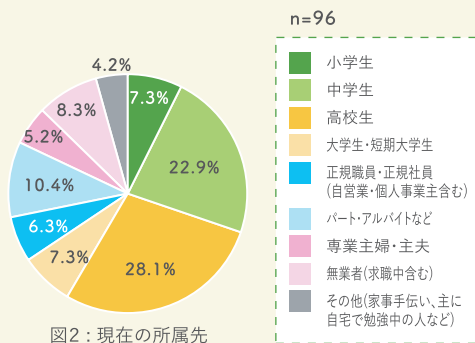


図2：現在の所属先

調査① アンケート調査回答者の現在の所属先（図2）

図2より「高校生」が28.1%と最も多く、次いで「中学生」が22.9%となっている。小学生から大学生・短期大学生までの学生にあたる子ども・若者は、合計で65.6%であった。残りの34.4%に関しては、「パート・アルバイト、契約社員などの非正規職員」10.4%をはじめとする学校以外で社会生活を送っている子ども・若者や保護者の方となっている。

調査① アンケート調査回答者の立場（図3）

図3より回答者の相談者との関係は、困りごとの主体である「子ども・若者本人」が74.0%、次いでその家族が25.0%であった。

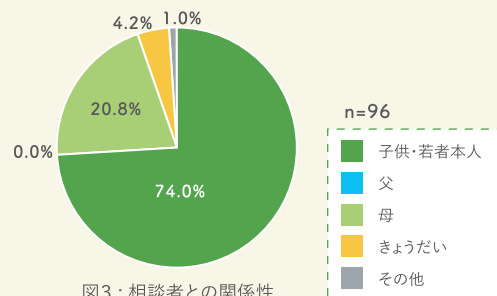


図3：相談者との関係性

【調査② 石巻圏域子ども・若者支援地域協議会構成機関等調査 回答機関の属性】

今回の調査では子若センターがつなぎ支援を行った3分野、15機関から回答を得た。調査②の回答機関は下記になっている。（なお下記15機関のうち、調査② 機関等調査 個別ケース入力票のみの回答機関が2機関あったため、調査② 機関等調査 機関票の全数は13となっている。）

調査② 機関等調査『石巻圏域子ども・若者支援地域協議会構成機関等調査回答機関』（表1）※分野別

【保健福祉】	【教育】	【就 労】
・東松島市保健福祉部 健康推進課	・認定NPO法人こどもへの感ばに一	・認定NPO法人Switch
・宮城県東部保健福祉事務所（石巻保健所）	・石巻市教育委員会	・石巻地域若者サポートステーション
・宮城県北部保健福祉事務所（大崎保健所）	・特定非営利活動法人TEDIC	
・石巻市 保健福祉部 保護課	・宮城県東部教育事務所	
・石巻市 保健福祉部 総合相談センター		
・宮城県発達障害者支援センター「えくぼ」		
・石巻市・女川町基幹相談支援センターくるみ		
・からころステーション		
・公益財団法人共生地域創造財団		

（記述/順不同）

表1：調査② 支援分野毎に分けた回答機関表

2. 石巻圏域子ども・若者総合相談センター相談者のニーズ及び傾向

① 相談者の過半数が困りごとは多岐にわたり、かつ複合的である

【1-1】子若センターに初めて相談した時の主な相談内容(図4)を見ると、「家族や家庭に関する問題」という自分自身以外の問題も含めて、多岐にわたっている。また、主な相談内容の選択数の割合(図5)を見ると、過半数の相談者が2つ以上の相談内容を選択しており、主な相談内容の関連具合のベン図(図6)からは、困りごとは重なり合い、複合的であることが分かる。同様のことは、センター相談時の生活の満足度の理由(表2)や、インタビュー調査(表3、表4)からも読み取れる。

調査① アンケート調査 設問5『子ども・若者総合相談センターへ初めて相談をしたときの主な相談内容(3つまで)を教えてください。』(図4)

図4より、子若センターへ初めて相談した時の主な相談内容は、「学校に関する相談」が最も多く52.1%、次に「家庭や家族に関する相談」が32.3%、「心や体の不調に関する相談」が28.1%であった。また、「自分でも何に困っているかよく分からないが相談した」も10.4%であった。

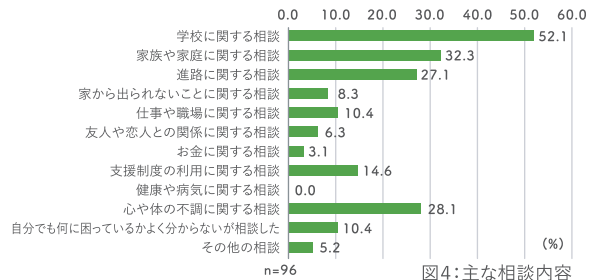


図4: 主な相談内容

調査① アンケート調査 設問5『子ども・若者総合相談センターへ初めて相談をしたときの主な相談内容(3つまで)を教えてください。』の主な相談内容の選択数の円グラフ(図5)

図5は、主な相談内容の選択肢をいくつ選んだかを示したグラフとなっている。グラフより「2つ」「3つ」と複数選択している回答者の割合が合計して58.4%と約6割近い人が2つ以上の課題をもって子若センターへ相談に来ていることが分かる。

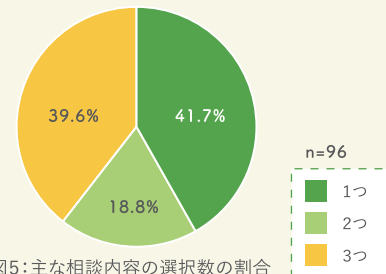


図5: 主な相談内容の選択数の割合

調査① アンケート調査 設問5『子ども・若者総合相談センターへ初めて相談をしたときの主な相談内容(3つまで)を教えてください。』の回答の重複度合いに関するベン図(図6)

図6は主な相談内容から主要な4つの項目について、回答者の選択内容を示したベン図である。図より「学校」「進路」「心や体の不調」「家族や家庭」という課題が重なり合い、複合的な困りごととなっていることが読み取れる。

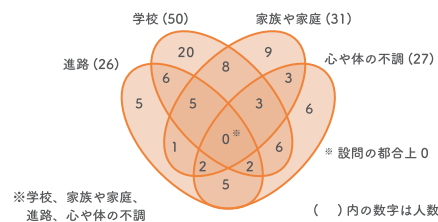


図6: 主な相談内容の関連具合のベン図

調査① アンケート調査 設問18『あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください。あなたは全体として当時の生活にどの程度満足していましたか。「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。回答された点数の理由を教えてください。※記述回答』

表2より、学校、家庭など多方面でうまくいかず、環境及び精神的に行き詰まった状態にあったことが複数の声からうかがえる。


相談当初の生活の満足度と回答理由(表2)

- ・ 不登校で、周りの目や家族との関係や自分自身の感覚が合わず、将来が見えず、どうしたら良いのかもわからず苦しかったから。(0点 / 石巻市、女性、中学生)
- ・ 色々悩んでいたし塞ぎこんでいたから。(1点 / 石巻市、女性、中学生)
- ・ 学校を辞めて、これからの事をいろいろ考えていっぱいいっぱいになっていたため。(2点 / 石巻市、女性、無業者(求職中の人を含む))
- ・ 高校生活の中で教室に行けなくなる、不登校気味になっていたから。家でもストレスに悩まされていたから。(3点 / 石巻市、女性、中学生)

調査① インタビュー調査より一部抜粋

表3、表4より、学校に行けない理由も本人の行きたくなさ以外に学校の先生との関係性、親との関係性も相まって本人だけの課題ではなくなっていることや、相談者本人と親の間でこれからのための希望にギャップがあることが読み取れる。

相談者Aのインタビュー内容（表3）

相談者A	そう。(親に)車から引きずり出されたり、本当に行きたくなかった時は、もう家から逃げて。(地域)のほうのおばあちゃん家とかにこもって、いろいろ迷惑かけちゃったかもしれない。 (中略) 小学校の時は「別室がいい」って言っても、(先生が)「教室に行こう」みたいな感じですし誘って来てしつこかった。「帰りたい」って言っても、あんまり帰らせてくれない。あと、無理やり引きずっていく先生とかもいたから、それがやっぱり違うかなと思って。	 (石巻市、女性、10代)
インタビュアー	話を聞いてると、小学校の当時の先生は無理やり、教室に引っ張ったりしてたけど、今の中学校の先生はそういうことをしないで、(相談者A)さんのペースを尊重してくれるっていう？	
相談者A	はい。	

相談者Bのインタビュー内容（表4）

インタビュアーA	いろいろご経験されて今(職種)。先ほども自分に合ってる、体を動かすのも合っていると仰ってましたけど。ちょっとまた時間軸が戻って、相談に来られるってなった時に、親御さんからこちらのことを聞いてということだと思っただけなんですけど。親御さんの、たまにあるのが、ご本人の希望と親御さんの希望が、差があるって我々経験するんですけど。ご自身は就労の前段階やりたいみたいなの。でも親御さんはまた違って、就職しなさいみたいなのとか。例えばですよ。その時、もし覚えてらっしゃったら、ご自身の希望とご家族の希望にギャップがあったか、なかったかそこらへん覚えてらっしゃいます？
相談者B	父親はなるべく早く就職してほしいみたいな感じなんですけど、母親のほうは、メンタル面を安定させるというか、そんな感じだったので。
インタビュアーA	ご両親でちょっと差があるというか。
相談者B	ある意味バランスとれてたのかもしれないです。
インタビュアーB	(中略) お父様はけっこう早くというご希望で、お母様はまずは心身が安定してという気持ちだったと思うんですけど。Bさん自身はどっち側だったとか、違って何かだったとかはありましたか？
相談者B	自分はどちらかというと、メンタル面の安定のほう。いきなり就職というのは不安だったので。そういう意味でも前段階のほうがいいというこちらの提案がすごく良かったんですけど。
インタビュアーB	お父様が早めにみたいなので影響受けたりはされなかったですか。プレッシャーとか、言うからには早く動かなきゃみたいな、実際アクション起こしたりとかあったりされました？
相談者B	なくはなかったですけども。こちらに通ったり、ここから(支援機関)に行ったりして、こう言うてはですけど、実績を作ったというかそういった感じで納得させると言いますか。こういうふうに進み始めたよという感じで。納得させたいな感じになりました。

(石巻市、男性、20代)

② 相談者の3割は悩みを相談できる相手がない(話を聞いてほしい)

【2-1】子若センターへの相談当初の相談できる相手について(図7)と居場所だと感じていた場所について(図8)の回答結果を見ると、相談できる相手については3割以上、居場所については2割以上の人が「特にない」と回答している。また、相談できる相手と居場所だと感じている場所について、相談当初の生活の充実度とかけ合わせてみると(図9、図10)、相談相手がないことや、安心できる居場所が特にないことと、生活の充実度は関連があると読み取れる。

調査① アンケート調査 設問23『あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください。あなたが「何でも悩みを相談できる人がいる」と感じていたのはどこ(だれ)ですか(いくつでも)。』(図7)

図7は、「なんでも悩みを相談できる相手」について尋ねたところ、「家族・親族」が42.3%である一方、35.2%が「特にない」と回答している。

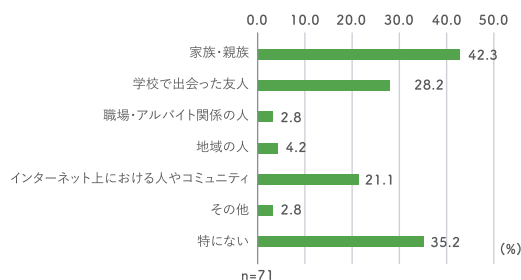


図7:相談当初のなんでも悩みを相談できる相手

調査① アンケート調査 設問22『あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください。当時のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、居心地の良い場所など)だと感じていた場所を教えてください(いくつでも)。』(図8)

図8は、初めて子若センターへ相談した時、居場所だと感じていた場所については、「自分の部屋」が45.1%である一方、26.8%が「特になし」と回答している。

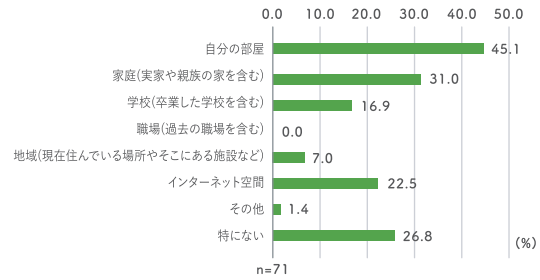


図8:相談当初の居場所だと感じていた場所

調査① アンケート調査 設問23と設問14のクロス集計(相談できる相手×生活の充実度) (図9)

図9は、設問23『あなたが子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時の状況について教えてください。あなたが「何でも悩みを相談できる人がいる」と感じていたのはどこ(だれ)ですか(いくつでも)。』と設問14『あなたは、当時の生活が充実していたと思いますか。あなたの実感をお答えください。』をクロス集計したグラフである。「特になし」と回答した人に着目すると、88.0%の人が「どちらかと言えば充実していない」「充実していない」と回答しており、他の回答に比べ、生活の充実度が低いことが分かる。

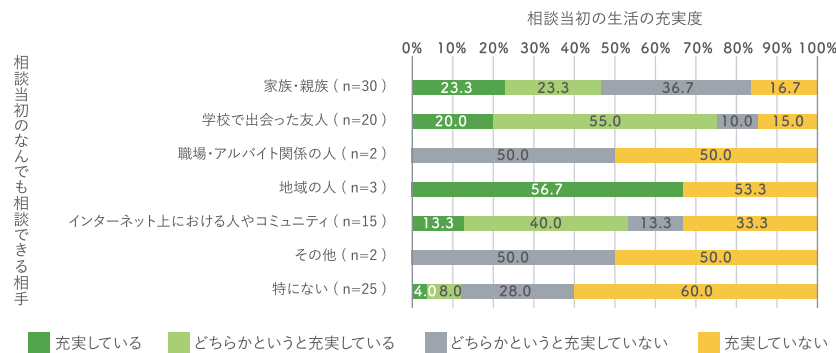


図9:相談できる相手と生活の充実度を測ったクロス集計

調査① アンケート調査 設問22と設問14のクロス集計(居場所×生活の充実度) (図10)

図10は、設問22『当時のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、居心地の良い場所など)だと感じていた場所を教えてください(いくつでも)。』と設問14『あなたは、当時の生活が充実していたと思いますか。あなたの実感をお答えください。』をクロス集計したグラフである。「特になし」と回答した人の「どちらかと言えば充実していない」「充実していない」が73.7%と高くなっている。続いて、自分の部屋と回答した人の「どちらかと言えば充実していない」「充実していない」が65.6%と高くなっている。

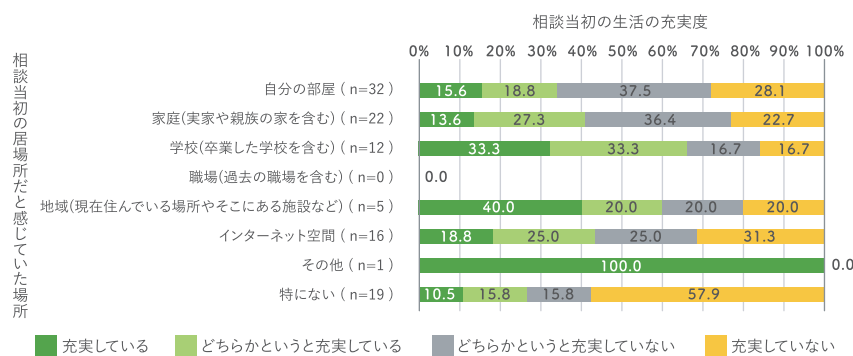




図10:居場所と生活の充実度を測ったクロス集計

【2-2】インタビュー調査(表5～表7)より、相談者はこれまで家族や支援者、他者との関わりの中で一定の傷つき体験があり、決めつけ、ラベリング、べき論や押し付け等のパターン的な関わりや、主導権を握られた関わりへの苦手意識を抱いていることが分かる。



調査① インタビュー調査より一部抜粋

表5～表7では、パターン的な関わりや、主導権を握られた関わりへの苦手意識に関して、学校へ行きたくないと言う相談者に対して否定的な意見を持っている家族と衝突している事例や、支援者に意見を押し付けられ傷つき感を持った相談者、こうあるべきという学校の流れになじめない相談者の声が見られる。

相談者Cのインタビュー内容(表5)

相談者C	その時、すごい反抗期だったっていうのはあるんですけど、自分が「学校に行きたくない」と言い出した当初から、おばあちゃんに「学校に行かないことは甘えだ」みたいな感じで言われて。それで「はあ?」みたいな感じで言って。それで「休みたい」とかって言うと、「受験生なんだから」みたいな感じで言われたりして、それでどンドン、どンドン嫌になってきて、家が。	 <p>(石巻市、女性、10代)</p>
インタビュアー	結構、おばあちゃんからも言われたりしてたんだね?	
相談者C	しました。	
インタビュアー	じゃあ、結構、おばあちゃんとお父さんからも言われて、進路のこととか、「学校に行かないことは甘えだ」みたいな感じで、それでもう?	
相談者C	そうです。	
インタビュアー	なるほどね。じゃあ結構、お父さんとかおばあちゃんとの関係性というか、そこがあんまりうまくいってない感じというふうにも。	
相談者C	そうですね。	
		

相談者Dのインタビュー内容(表6)

インタビュアー	(相談者D)さんからすると、どういう人が話しやすいなって思える?	 <p>(女性、30代)</p>
相談者D	たぶん、私が駄目なのは、逆に自分のテンポでぐいぐい来る人。だからたぶん(支援機関の方)さんもそのタイプだろうと思ったら、ごめんなさいになって、すぐ。	
インタビュアー	(支援機関)の。	
相談者D	だから自分の意見で来ると。それがすぐに合わせて話聞いてくれたりしてくれないと、ちょっと話しても無駄だったみたいな。	
インタビュアー	関わってる人も、「これです、こうしましょう」とかって言うことは。	
相談者D	ましてや、こういうことで困ってるって言って、その言われたことに対して、「いや、手帳見れるのは(相談者D)でしょ?」って言われると、相談する相手間違えた。でもそうだしねってなってたけど。	
インタビュアー	それは結構言われたんですか。言われたり、態度で示されたんですか。結局は自分自身でやるんでしょみたいなこと。あなたが、(相談者D)さんがやらないととか。	
相談者D	今のところで、簡単にこういう状況でこういう風に病院に言われたんですけどって言ったら、いや、いまのまま悪くならないんだっいたらいいよって感じで、そういう感じで言われる。なんのために報告したのか。	
		

相談者E保護者のインタビュー内容(表7)

相談者E保護者	1年生で入ったときに。その前に幼稚園がすごい好きで楽しくて、ほんとに自然の中じゃないですか、わりと。すごい楽しくて、小学校に入ったときに、小学校ってなんでこんなに面白くないのって言ってたんです。1年生って、勉強はするけど、楽しいじゃないですか、給食もあるし。全然楽しくないって。ええって思って。うそでしょ。って。お友達も、意地悪な子はひとりもないんです。この人が勝手に、私は本を読みたいのに、皆が外で遊ぼうって言うてるって。いやそれ普通だから。みたいな。感覚がちょっとずれてたっていうか。なので、勉強どうこうとか、(姉)みたいに。じゃなくて。単に、感覚のずれなんです、この人。集団で同じことをしなきゃいけないというのがものすごく苦痛らしくて。すごい段ボールで工作を作るのにはまってたんです。2年生3年生くらいに。確か。そのときに工作、ずっと1日中作ってたんです。でも図工の時間、先生、図工あるから明日おいでって誘ってくれたんですけど。図工好きだよなって。学校の図工は嫌い。なんで? っていうと、皆と同じもの作んなきゃないから。絵もテーマ決められるから、自分の描きたいもの描きたい。ほんとに学校が悪いとかじゃなくて、感覚の違い。それが苦痛なんだ。(相談者E)にとっては。友達も、おいでとか、行けば遊ぶし。全然ないんだけど、先生も別に悪いわけじゃないし。嫌いな先生いないよね。
---------	--

【2-3】アンケート結果から、対面での相談形式がよかったこと(図11)や、話を聞いてもらったことが役に立ったと感じている事(図12)が分かる。困りごとの改善の理由についての記述回答(表8)からも、同様の声があがっている。また、2-2(P9)の傾向と、インタビュー調査(表9～表11)の声を重ねると、話すことが苦手であったり、過去の傷つき経験から自分から話すことには抵抗があるが、話しやすい空気や問いかけがあれば話したい・聞いてほしいという心理状態であることが言えるのではないだろうか。

調査① アンケート調査 設問27『子ども・若者総合相談センターから支援を受ける場合に、どのような形で支援を受けるのが一番良かったですか(いくつでも)。』(図11)

図11は、子若センターのどのような形で支援を受けるのが一番良かったかという問いについて「対面」と回答する人が75.0%と一番多く、次いで「電話」「メール」がそれぞれ28.1%となっており、相談者が対面での支援を望んでいたのではないかと読み取れる。

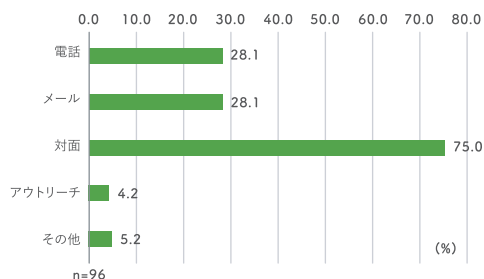


図11:一番良かった支援形式

調査① アンケート調査 設問28『子ども・若者総合相談センターの支援の中で、役に立った支援を教えてください(いくつでも)。』(図12)

図12は、子若センターで役に立った支援のうち、多かった回答については、「話を聞いてもらったこと」が最も多く71.9%、次に「アドバイスをもらったこと」が40.6%、「何回でも相談に乗ってもらえたこと」が34.4%であった。

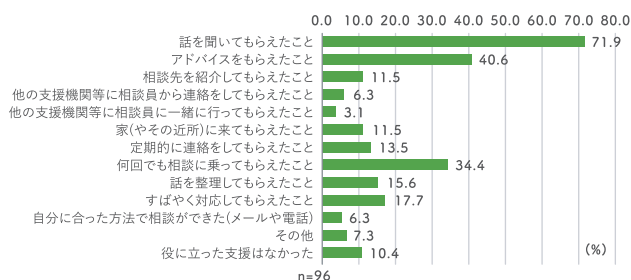


図12:センターの支援の中で役に立った支援方法

調査① アンケート調査 設問34『子ども・若者総合相談センターに最初に相談した時から、あなたの抱えていた困りごとは改善しましたか。その回答した理由を教えてください。※記述回答』

困りごとが改善した理由についての記述回答からも、子若センターでの相談が役に立ったことが読み取れる。一方で、話を聞いてもらうだけで効果がなかったと感じる回答も一定数見られた。

相談当初からの困りごとが改善した理由(表8)

- ・ほとんどは時間の流れが解決したことだったから。でも、その流れる時間の中で、相談にのっていただき、ひとときでも気持ちの安まるときをつくっていただけてありがたかった。嬉しかった。(石巻市、女性、中学生)
- ・ゆっくりと、しっかりと話を聞いてもらえてその上でどうすればいいかのアドバイスを貰えたから。(石巻市、女性、中学生)
- ・親身になって話を聞いてくれたから。(女川町、女性、高校生)
- ・誰にも相談出来なかったから 人に言えて楽になった。(石巻市、女性、小学生の保護者)
- ・話を聞くだけで、具体的な解決にはならなかった。(東松島市、女性、無業者(求職中の人を含む))

調査① インタビュー調査より一部抜粋

表9～表11では、自分から話し掛けるのが苦手だという相談者に対し、話し掛けてくれる相談員への好印象を持ったという話や相談員のコミュニケーションを通して話すことが好きになったという相談者の声が出ている。

相談者Fのインタビュー内容（表9）

インタビューー	「あ、この人だったら話してもいいかな？」みたいな感じも、少しづつ思えていった感じは？
相談者F	はい。
インタビューー	じゃ、(相談員)さんの印象はどうでした？
相談者F	最初は、すごい真面目そうな人だなと。
インタビューー	真面目そうだった？
相談者F	すごい、あんまりコミュニケーションとか取らなそうな人だなという偏見があったんですけど、なんかすごい、話しかけてくださったので、「ああ、なんか思ってたよりよかった」みたいな。
インタビューー	よかった。
相談者F	はい。最初の印象とだいぶ違って。
インタビューー	そうだね。どっちかっていうと、話しかけてくれたことが(相談者F)ちゃん的には話しやすくなっていった感じが？
相談者F	そうですね。自分から話しかけるっていうのがあんまりできないので、話しかけてもらったほうが、自分は話しやすいです。



(石巻市、女性、10代)

相談者Gのインタビュー内容（表10）

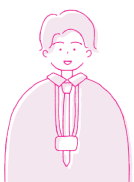
インタビューーA	僕ら(支援機関)の人間と思わなくていいんだけど。なんでこういうことを言ったのかと言うと、(相談者G)さんが通ったことで、「自分に影響したこと」、もうちょっと言うと、「こういうことが良かったかな?」とか「いや、ここはあんまり役に立たなかったかな?」とか、そこらへんを率直に聞きたいんだけど。例えば、(支援機関)でやってる居場所とか、(上記とは違う支援機関)っていったっけ? とかに通ったことって、(相談者G)さんに、どういうふうに影響したと思いますか?
相談者G	やっぱり、スタッフとかと話すことで、コミュニケーションとか、最初の時はあまり話すことが好きじゃなかったんですけど、話すことが増えてきて、そういうので、人と話すことが好きになった。
インタビューーA	途中の印象だけけど、(相談者G)さん、すごい明瞭に、いろいろ答えてくれるから、すごい聞きやすくって、本当に。当時はあんまり、人と話すのが好きじゃなくて、こういう所に来るのも、知らない人ばかりの面談みたいな所で話すのはちょっと勘弁みたいな。
インタビューーB	そりゃそうだよね。
インタビューーA	今、話してくれたことって(支援機関)と(上記とは違う支援機関)で、両方で同じようなことが言えますか?
相談者G	はい。



(石巻市、女性、10代)

相談者Hのインタビュー内容（表11）

インタビューー	ありがとうございます。その話しやすそうな人というところを、少しちょっと丁寧というか掘りたいんですけど。どういったところが話しやすいとか。もしくは自分の悩みを打ち明けるとか、困っていること打ち明けるって一定の勇気というか、初対面だけけどこの人に話していいんじゃないかなみたいなのが生まれないと、なかなか難しいと思うんですけども。そういった当時のお気持ちというところをもし追加であれば、お聞かせいただいてもいいですか。
相談者H	どうでしょう……。正直ちょっと詳しいことまでは覚えていないんですけど。もしかすると、ここまで来たからには話そうみたいな感じだったのかもしれませんが。聞いてくれるとけっこう話せるほうで、自分からあまり言わないけど聞いてくれると話せるみたいな感じなので、そのあたりもしかしたら丁寧聞き出してくれたのかなと思います。



(石巻市、男性、20代)